

新しい住環境の価値創造小委員会 キーワード整理(2013.9.17 幹事会による)

A)キーワード	B)説明(任意)	C)分類(該当するものに○、複数可)				
		空間 デザイン の 視点	法 制 度 の 視 点 ・ 仕 組 み	人 々 の コ ミ ュ ニ ティ の 視 点	そ の 他 (具 体 的 に)	記 入 者

総論

総合的な領域の理解	住概念を拡張し、総合的な領域に広げた際に、総合的な領域をどのように理解し、記述し、共有していくかは課題である。その手がかりが示せるといい。				○	佐久間
時間軸を入れた価値	完成時などの単なる時間断面ではなく、継続する時間の中での価値の持続や生成をめざす。	○		○		田中
新しい価値による意味づけ	着目されていなかった物、市場から見捨てられた物に対して、新しい利用法や新しいデザイン上の意味づけを与える	○				木内
新しい価値の必要性の発見	居住地の状況変化に対応して、新たに必要とされる活動やサービスを発見する	○				木内
新しい価値に基づく評価手法	人々の価値観が変わったときの新たな価値を評価するための手法			○		木内
新しい価値の受け入れ	新しい価値を住民が受け入れるプロセスに関する方法論			○		木内
価値観の変化の克服	価値観の変化への住民の受け入れ態度の違いを克服するための方法論			○		木内
既存制度への新しい価値観の導入	規制・誘導制度に新たな価値観を盛り込むための方法		○			木内
住環境価値転換	これまでは悪いとされていた住環境が良いとみなされるようになった(例:住宅街に立地するゲームセンターが高齢者の社交場に)		○	○		桑田
住環境価値創出	これまでは住環境にとって重要とみなされてこなかった視点が、新たに重要であるとみなされるようになった(例:環境の激変の可能性が低い住宅地)	○	○			桑田

住宅地全てに共通

ライフスタイル、暮らしぶり				○		加藤
ライフスタイル	特に郊外住宅地では、住むだけの町から、住み、活動し、働くというアクティブな地域への転換が、ライフスタイルの変化に伴って必要になってくる。どのようなライフスタイルを想定し、町の構造転換をどのように促すかを検討する必要がある			○		高鍋
場所	新しい住環境価値が生まれうる場所(新しい住環境価値を見いだす人々)	○		○		加藤
市場性	土地の持つ市場性(=土地利用需要)と目標像との関係、実現手法	○	○			星
先行存在価値の残存	地形や樹木など敷地に先行して存在する住環境価値を残し、価値の保全・増加をめざす。	○		○		田中
共用空間(シェアードスペース)のデザイン	緑豊かな屋外空間を共用空間(シェアードスペース)として組み入れた計画手法の開発。	○	○	○		田中
ホスピタリティ	地元の住民にとっても訪問者にとってもホスピタリティの溢れる空間 ホスピタリティを何で空間的に表現するかは場所の特性による	○	○	○		秋田

手づくり	手づくりされた空間の魅力、手づくりした空間への愛着	○				秋田
花と緑	とくに新しくはないですが、やはり住環境において欠かせない要素	○		○		秋田
新しい住宅スタイル	ニーズの変化に伴って、求められる住宅スタイルも多様化する。シェアハウスなどが多世代に広がりつつあるが、基準法上の問題を抱えている。この他、グループリビング、コレクティブハウスなど高齢化時代の居住スタイルも事業手法・運営手法により多様化する可能性があり、事例を通じてそのあり方、制度面の課題を検討する必要がある	○	○	○		高鍋
ユニバーサル住宅地		○				野澤

支える制度

既存不適格			○			加藤
不動産権利の流動性			○			加藤
特区			○			加藤
放棄される容積への対応	夕張、札幌市もみじ台でみたように、地方都市・縁辺部では容積の放棄が起きている。放棄される容積の維持管理のあり方、景観についての課題整理と展望される価値を考えたい。	○		○		佐久間
一件審査型建築誘導	事前確定的土地利用規制の中での建築確認のみによる建築行為のみではなく、より積極的に目標像実現に資する建築行為を一件審査により誘導する手法	○	○			星
敷地境界を越える	建築基準法による敷地単位の計画を超えて、複数敷地区画を包括的・協調的にデザインする。	○	○			田中
都市農地の保全と活用	単なる未利用地ではなく、住環境に資するオープンスペースとしての農地のあり方を評価し、その残存や活用に寄与する住環境計画手法の開発。	○	○	○		田中
サービスネットワークの充実	ハードは変えずに、子育て、コミュニティ形成、高齢者対応等住みやすさを向上できるソフトのネットワークを充実させる。			○	○	藤井
担い手	これからの住環境を維持、向上させていくための地域の担い手像とその組織のあり方などについて、目的とそれに対応する事例などを通じてあるべき姿を検討する必要がある。			○	○	地域組織の仕組み 高鍋
住み替え	高齢化、単身化の進展により高齢者の住み替えニーズが発生するとともに、子世代の近居ニーズも発生する。一定の地域内での住み替えを促進するためのアイデア、制度や仕組みのあり方についての検討が必要。但し、かなり難しいテーマ			○	○	事業の仕組み 高鍋

コミュニティ

交流	交流(移住、観光など)による気づき			○		加藤
シェア	シェアハウスや、住み開きといったように複数主体で一つの空間を利用する動きが出ている。可能性はもちろん、課題の整理をしておきたい。	○	○	○		佐久間
公共性	ある場所が持つ都市全体構造の中での役割(公共性)と住環境とのバランス	○	○		住環境を捨てる視点	星
市民自治	公共的機能を地域コミュニティが担うことによる、より効果的な住環境向上の可能性	○		○		星
自律圏	地域社会圏とスケールは似ているけれど、一体の建築的解決法とは異なる、集合体としての自律して生活するための圏域のあり方			○		内田
コミュニティへの依存	地域を救うのは「コミュニティ」であると言っているけれど、本当のところ機能しているのか疑問			○		内田
流動性	これまで住環境を検討するうえで「住み続ける」ということに拘りすぎたのではないかと。住み続けることではなく、誰もが受け入れられるようなコミュニティづくりが重要だと感じる			○	○	秋田

住宅のシェア (共通の価値観)	若手中心に広がりつつあるシェア住宅など、共通の価値観を共有する者が新しい共同居住をすることで、ストックの有効活用(改修)や居住コストの縮小を実現する。また、スマートな住まい方に対応したデザインを実現する。	○		○		藤井
住宅のシェア(3世代居住)	核家族化が進んだが、3世代などの居住を新しい形で実現し、大規模ストックの有効活用(改修)や居住コストの縮小を実現する。	○		○		藤井
住環境のシェア	街中に存在する優れた住環境や街並みを大事にして共有することにより、個々の居住水準はある程度節約したものとする。	○		○		藤井

古くなった計画的住宅地

リノベーションと コンバージョン		○		○		加藤
マンション再生、 団地再生	区分所有法	○	○			加藤
郊外住宅地	住環境を向上させる、維持する、非市街化を目指すのどれを選択し政策を立てるか		○	○		星
団地再生		○				野澤
人間のための 路	道路と敷地の関係だけによらず、人間のための路としての「通路」を活用した計画のあり方の再評価と開発。(長屋建て、連担建築物設計制度など)	○	○			田中
セカンドハウス	北陸新幹線の開通を見据えてこういった話が地元で盛り上がっていますが、モビリティの高まりと連動して語られるキーワード			○		内田
町家、昭和の住宅	町家条例が最近金沢で施行されました。町家に限らずバナキュラーなものもどのように守っていくか。	○	○			内田
ヒューマンスケール	道路の幅員や緑地などのインフラも含めたヒューマンスケール	○	○	○		秋田
密集市街地の デザイン誘導		○				野澤

負の住宅地の再価値化

不便さ	不便さ(従来はネガティブに捉えられていたこと)をポジティブに捉える価値観、それを受け止められる環境づくり。一方、どこまでの不便さを受け入れられるのか。			○	○	加藤
継承、混じり合い	新しい価値観が広がる中で、それまで引き継がれてきたコト(モノ?)は継承されるのか。新と旧の混じり合いはいかに進むのか。そこから何か生まれるか。	○			○	加藤
住概念の拡張	人口減少社会における空間のつくり方を考えるときには、総合的な領域が必要になると思う。これまでの「住」まうこと概念を拡張した研究ができるといい。				○	佐久間
小さな用途の混在	「住」という概念の拡張を考えると、たとえば住まうことだけでなく生産や交流といった他の用途との関連での空間のあり方が考えられるのではない。	○			○	佐久間
多様性	流動性と重複する部分もあるが年齢層の多様性や居住者の多様性、また、価値観の異なる他者を受け入れることが持続性に繋がる	○			○	秋田
意外性	単調な空間ではなく意外性、発見が住環境にあっても良いのではない	○				秋田
対立から協働へ	対立関係を協働関係に変える方法論				○	木内

新たな導入機能	ライフスタイル、時代の変化に伴って住宅地に必要とされる機能についての再検討が必要。近代都市計画理論で住宅地に必要とされる機能は、最低限の公共サービスが中心であったが、今後必要とされる機能は地域において住民が活動する場、自らサービスを供給する側としての機能、働く場としての機能なども求められる。		○	○		高鍋
大都市フリンジの小規模戸建て住宅地		○				野澤

空き家

空き家の発生と活用	それまでの価値観。新たな価値観の受け入れ。		○	○		加藤
空き地・空き家への対策	ある程度課題の整理はできつつある様に思う。所有者の特定、利活用の難しさなど。実践例から見えてくる新しい価値の生まれ方、生み出し方の整理ができればいいのではないかな。		○	○		佐久間
朽ち果てた空き家	ただの空き家では無く、朽ち果てた状況の空き家が地方都市に点在する。住環境のまえに危険性が高いが、良く見るとデザイン価値があるようなものも多い。空き家条例も最近増えています。	○	○	○		内田
外部大家	これも地方都市に多いが、外部大家の存在によって、住環境保全の思いが地域から薄まっているところもある			○		内田
マッチング	3、5と関連する話ですが、空き家バンクの話など・・・		○			内田
空き家活用	空家の顕在化が様々な住宅市街地でも発生し、これを地域のために有効に活用するアイデアが必要になってくる。コミュニティの拠点、地域サービスの拠点、高齢者の居場所、子供の居場所、シェアハウス、カフェなど。このアイデアと制度上の問題を検討する必要がある。		○	○		高鍋